

0125

軍務司

駒橋艦長第一號

昭和十一年十二月十日

横須賀

駒橋艦長岸入三

海軍大臣殿

第一課 提出

北極第一課 測量報告

別紙添付

一部

郵送

陸軍部



(昭和十一年十二月十日)

海軍

昭和十一年度測量報告

軍艦 駒橋

任務中、行動作業概況

1. 五月四日東京湾浦賀水道至動氣象観測風  
飛揚實驗ヲナン良好ナル結果得 即日横須賀ニ  
帰港ス

第一次測量第一回行動

五月七日午前水路部長視察訓示アリ同日吾。  
横須賀出港日本海溝一部音響測深ヲ實施ス  
十日一七三〇國後水道ヲ北上シオホツク海ニ出テ豫定  
從ヒ作業ヲ每員施シシ、千島列島沖ヲ北上十三日  
〇八二〇第五測點ノ作業ヲ終了ス然ルニ當時来ッ  
ク海西方ニ低氣壓出現セルヲ以テ荒天ヲ豫期シ

毎 日

山氣象測量班ニ對スル補給ヲ先ニスベク北上十三日  
 朝占守海峡ヲ東航口パツカ沖ヲ経テ同日一三〇〇  
 壘山著直ニ同地氣象測量班ニ對スル補給作業ヲ  
 開始シ午後終了一九四〇拔錨松輪島ニ向フ  
 十四日午後松輪島ニ接近セシニ濃霧アリ推測航行  
 ヲ以テ接岸一六五四同島ノ東沖ニ假泊ス翌日  
 早朝霧霽レタルヲ以テ錨地ヲ変更シ直ニ同地氣  
 象測量班ニ對スル補給班ニ一部人員ノ交代ヲ行ヒ同日  
 一七五〇出港ス爾後豫定ニ從ヒ千島列島南側ニ  
 沿ヒ北上セルモ十六日午前北緯四九度三〇分  
東經一五七度〇分附近海  
 面ニ於テ低氣壓ニ遭シ船ヲ風浪ニ立テ微速力  
 航行ニテ天候回復ヲ待ツ  
 十七日早朝天候回復シ幌筵島ヲ認ムルニ至リタルヲ以テ

昭和八年七月 大倉納

原速航行トナシ一二〇〇壘山沖漂泊同地氣象測  
 量班員一部交代ヲ行ヒ同日午後及翌十八日午  
 前中幌筵島東方二〇〇米界線測深ヲ行ヒ  
 一八三〇占守海峡ヲ西航北上シカムヤツカ沿岸ヲ經  
 テ爾後豫定ノ如ク十島列島北方ノ作業ヲ妥員  
 施セリ。然ルニ松輪島ノ無線不具合ニテ感度  
 ナカリシ故ニ十日松輪島ニ至リ之ヲ調査ラナク翌  
 日故障復舊セシヲ以テ爾後十島列島ノ南岸ニ  
 沿ヒ作業ヲ續行シ二十三日午前色丹島東方  
 ニ〇米界線測深豫定地點附近ニ達シ洋中深  
 海投錨ヲナス。午後ニ至リ夫測艦位(北緯四四度一〇分  
 東經一四七度四七分)  
 ヲ得タルヲ以テ該位置ニ設標シ之ヲ基點トシ附近  
 測深ヲ實施シ翌二十日午前測深ヲ續行シ一二

毎

頁

〇〇作業ヲ終了シ釧路ニ向ケ發シ五日〇五五三  
入港ス

本行動中ハ十六日荒天ニ會セル外海上概不平稳  
霧モ比較的少ク作業極メテ順調ニ経過セリ  
第一次測量 第二回行動

釧路在泊中石炭 眞水 糧食 補給ヲテ五日

一三〇〇作業地ニ向ケ出港 豫定ニ從ヒ作業ヲ續行

シ六月八日〇七〇〇アリモシヤン群島ヲト島沖ニ達ス

爾後再ヒ豫定ニ從ヒ作業ヲ繼續シ六月二十日〇八〇〇

大湊ニ入港ス

今回行動中ハ屢々霧ヲ遭遇セシモ海上概不平稳

ニシテ作業極メテ順當ニ経過セリ

昭和八年七月 大倉納

ニ第一次測量第三回行動

大湊ニ於テ重油石炭真水並ニ糧食ニ部補給  
 ナリシ六月十日〇九三〇大湊發一五五〇青森入港ス  
 然ルニ同地ニ傳染病蔓延シテアリシ為補給地ヲ  
 函館ニ變更スベク翌十日〇九三〇出港一五〇九函館  
 入港ス 函館ニ於テ補給残部ヲ完了シ六月十八  
 一三〇〇作業地ニ向ケ發豫定從ヒ作業ニ從事ス  
 本行動中ハ霧ニ遭遇スルコト頻繁ナリシモ海上  
 概テ平穩ニシテ作業順調経過シ十九日〇七二四  
 釧路ニ入港ス

本行動中豫定作業外左記ヲ實施セリ

(一)アガツ島東方海面探礁

七月六日午後アガツ島東方海面(概位北緯五二度〇分ニ  
 東經一七四度四分)ニ

於テ浅水個所ヲ發見セシ爲七日八日、兩日ニ直リ附  
 近ノ探礁ヲ實施シ最浅水深一三〇米(音響測深)ヲ  
 得タリ(駒橋機密第一號五ニ提出、水路部ニ探礁記事  
 参照)

(一)アツツ島西方海面ニ於テ浅礁發見

七月十日午後アツツ島西方海面ニ於テ浅水個所ヲ發  
 見セシ爲該所ニ投錨シ翌十二日午後天測位置  
 北緯五二度四分三十分ヲ得タルヲ以テ一七五ニ投錨航路  
 東經一七〇度五八分ヲ得タルヲ以テ一七五ニ投錨航路  
 上ヲ測深シテ豫定測量點ニ向ヘリ、該海面行  
 動日數ノ關係ヲ精測スルヲ得ガリシモ三〇〇米以  
 ノ水深一〇哩以上ニ及ブ廣大ナルモノト推定ス  
 測得最浅水深六〇米(音響測深)ナリ

昭和八年七月 大倉納

本第一次測量 第四回行動

釧路ニ於テ補給ノ上七月五日一三〇。出港豫定ニ  
 從ヒ作業ヲ海員施セシガ豫定作業ノ外コマンドルスギ  
 島トアツツ島間ノ測深ヲ海員施スベク行動シ七月五日  
 午前コマンドルスギ島南東海面ニ請シ八月日アツツ島  
 西方海面ニ請ス爾後豫定ニ從ヒ北上ス本測深ニ  
 於テ北緯五四度ニ分ニ於テ音測ニ依ル水深一七米ヲ  
 發見セリ

八月四日一三〇最北點タル六九番測點(北緯六一度三〇分ニ  
 東經八〇度〇分)ニ  
 請シ洋中投錨ノ上一晝夜ニ亘ル測流ヲ施行シ翌五日  
 八〇。發豫定ニ從ヒ南下シ七日オナツエ島ヲ大射海  
 面ニ依ル暗礁附近ノ探礁ヲ海員施セシテ附近ニ暗礁ヲ  
 認メテ駒橋機密第二號五測深記事 参照水路部(三)

要 宜



雨後豫定作業ヲ繼續シ八月十六日〇六五三火漆ニ入港ス

本行勤中ハ屢々霧カニ遭過セシモ終始海上極メテ平穩ニ作業順當ニ經過セリ

第一次測量 第五回行動

火漆ヲ補給シ上八月十六日函館ニ回航ニ當リ一三〇〇作業地ニ向ケ同地發當初稍荒天續キタルモ豫定ニ從ヒ作業ヲ安負施 九月四日朝カムチヤカ南東岸ニ達ス 四日九日兩日於テカムチヤカ南東岸ヨリ幌筵島東岸ニ至リ二〇〇米界線測深ヲ安負施シ概ホ之ヲ完結ス 此間五日松輪島八日壘山氣象測量班ニ對スル補給並ニ人員一部交代ヲ完

昭和八年七月 大倉納

了シ九日豫定ニ從ヒ千島沿岸ニ沿テ作業ヲ續行シ  
 十日午前國後水道ヲ南下シ十四日日本海溝ニ到  
 測深ヲ實施シ九月十六日〇八八横須賀ニ入港ス  
 今回行動中ハ千島沿岸ニ時霧ヲ遭遇セテ殆  
 ンド霧ヲ見テ海上ニ概テ平穩ニシテ作業順當ニ進捗セ

ト第二次測量 南洋行動

十月十五日一七〇横須賀出港 御前埼沖ヨリ潮山沖  
 ニ至ル海面ニ黒潮調査ヲナシタル後二十日午前紀州  
 沖發松生礁(假稱)ニ向ケテ作業ヲ實施シソ、南下ス  
 二十日午前該地點ニ達シ北緯三〇度五五分三〇秒、東經  
 一三九度〇分〇秒ニ設標  
 之レヲ中心トシテ探礁ヲ開始シ翌二十日午後早中  
 最深水深一五米ヲ得タリ、同夜ハ微速航

一

二

行ヲ以テ此、附新ヲ行動シ翌二十五日早朝測深クナシ  
 ツ、南西ニ向ク探礁ヲ行ヒシモ報告位置タル北緯二〇度五分  
東經一〇度五分  
 附近ニ浅水深個所ヲ發見セズ 一七〇〇測深ヲ中止シ  
 豫定航路ニ從ヒ南下ス 二十七日午前ヨリ低氣壓ニ遭  
 遇シ動搖片舷四十五度ニ及ビ一八三〇ヨリ翌二十七日〇三〇〇  
 迄半速航行ノ已ケキニ至レリ  
 二十日南疏黄島南方海面概位北緯二二度二分  
東經一〇度五分ノ測  
 深クナシ畧測ニ終リタルモ最浅水深三九五米音測ヲ得タリ  
 平日午後北緯一八度九分三分  
東經一〇度七分一分ニ達シ該地點ニ設標シ  
 附近探礁ヲ實施シ翌二十一日完了最浅水深  
 二六米音測ヲ得タリ  
 十月一日〇六五四カイパン島タノハク湾ノ入港ニ在泊中  
 石炭、真水、糧食、補給品ニカイパン臨時氣象観測

昭和八年七月大倉船

班、観測設備ヲ完成ス。五日出港、豫定ナリシモ  
 荒天、為中止シ翌六日天候、恢復ヲ見。〇八三〇  
 パガンニ向ケ出港。七日〇九三五著同地氣象測量  
 班ニ對スル補給ヲナシ一三三四出港ス。  
 爾後豫定ニ從ヒ作業ヲ實施シ十日午前  
 Palakines Is. 附近ヲ通航セシモ航路附近ニ浅水個所  
 ヲ發見セズ。十日一二四〇南鳥島ニ達シ同地氣象  
 測量班ニ對スル補給ヲナシ一五〇六發豫定ニ從ヒ作  
 業ヲ續行シ十六日早朝野島崎東方海中噴火  
 報告位置(北緯三四度五分、東經一四七度七分)ニ達シ附近ノ音測ヲ實  
 施セシモ水深五四〇米以上ニテ終始セリ。同日二一〇〇  
 測深ヲ中止シ西航翌十七日野島崎沖、採水作  
 業ヲナシ十八日〇八五三横須賀ニ入港ス。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

本行動中東風十米以上ヲ受クルヲ常トセシテ作業  
 概テ順當ニ経過セリ

洋  
 算

昭和八年七月大倉納

		二 航海日数・総航程・炭水消費額・患者一覽表						
項目		五月						
航海日数(日時分)		五月						
総航程(哩)		五月						
燃重(噸)		五月						
料(噸)		五月						
眞水(噸)		五月						
患者		五月						
延業		五月						
延業	八	三〇	七	七	一三	一	四	九
患者	五	九	八	一	七	一	六	四
眞水	三〇	四〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
飲水	三〇	四〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
雜用水	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇
燃重	四〇	五〇	六〇	六〇	七〇	七〇	八〇	八〇
料	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
石	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
炭	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
航程	三二六	四四一	五五八	六七五	七九二	九〇九	一〇二六	一一四三
日	三	四	五	六	七	八	九	一〇
時	一	二	三	四	五	六	七	八
分	一	二	三	四	五	六	七	八
計	三二六	四四一	五五八	六七五	七九二	九〇九	一〇二六	一一四三

													(人)数
													休
													院業
													〇
													二
													二
													三
													一
													〇
													二
													〇
													三
													〇
													三
													〇
													三
													〇
													三
													〇
													三
													〇
													三

昭和八年七月大倉納

三、測量成績一覽表

測量種類	第一次		第二次	
	訓令依ル数	實施数	訓令依ル数	實施数
採水檢温	一〇二	一〇七	毎日同量同	五四
測流	一〇二	二〇	熊野灘沖六〇哩毎	一五
錘測	一五	三四	/	一五
音響測深	6h 9h 12h 15h 18h	上記外必要數	6h 9h 12h 15h 18h	上記外必要數
探礁	/	三	二	五
水色及透視	畫間各測點	六一	畫間各測點	二〇
氣象觀測	航海中毎時	上	航海中毎時	上
氣流觀測	天氣良好日	三八	/	四
雲高測定	低層雲場合	八二	/	/
氣象依觀測	霧中航行中 毎日午前午後各音	一四	/	/

毎

日



					四、供用品(水路部)残高表								
					全部還納								
										〓〇			

計  
算

昭和八年七月大倉組

五測深儀現狀

イF.式音響測深儀

(一) 深海部

出港前工廠ニ検査ヲ檢査直ニ修理ヲオシタルモ第2次測量  
南洋行動中感度不良ニテ四〇〇〇米以上ノ測深ニ困  
難ナリキ

十一月初旬カイロン在泊中増幅器ヲ分解セルニ  
五〇〇〇オーム一三〇〇〇オームノ抵抗甚ク降下セルヲ發  
見補用品ト交換セシモ猶感度不良目下工廠ニ  
修理請求中

(二) 浅海部

發信器絶縁不良入渠セザレバ修理不能ナルモ使  
用ニ差支ナシ目下工廠ニ修理請求中

ロシ式電動測深儀

(一) 一、二號共足踏ブレーキ及制動索永年使用の結果

摩耗之修理請求中

(二) 二號電動機整流子及刷子摩耗セル為修理

請求中 同電動機回轉不調付修理請求

中

(三) 一號道子滑車球軸承摩耗修理請求中

八電動測深儀

(一) 半動輪止ピン摩損修理請求中

(二) 四狀發條切損修理請求中

(三) 電動機及抵抗加減器不具合付修理請求中



昭和八年七月六日附

御量  
訓令

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

准

目

(11.3.-20.)

軍務局 寫

海軍省事務局長

水機密第二〇〇七號ノ四

昭和十一年三月三十一日

四月一日送付

水路部長

測候所

軍務局 11.4.1. 第二課

第一課 第二課

海軍中佐 朝比奈 秀雄殿

並圖誌印刷ノ件追加訓令

首題ノ件ハ昭和十一年二月一日附水機密第二〇〇七號ニ據ルノ外左記ニ據リ實施スヘシ

記

一 測量隊員ニ左記人員ヲ加フ

- 海軍技師 荒木力次
- 囃託 矢崎忠藏
- 技生 諸岡直巳

海軍

水路測量

方面	區域	尺度	記事
----	----	----	----

黑龍江	奇克特附近至撫遠水路西口 撫遠水路	五万分の一 二万五千分の一	昭和十年測量終了區域ヲ除ク 同江上流ニ餘カアル場合之ヲ行フモ トス
-----	----------------------	------------------	---

烏蘇里河	撫遠水路東口至湖系子河口 湖系子河及烏蘇里河支流	五万分の一 二万五千分の一	
------	-----------------------------	------------------	--

興凱湖	當壁鎮及湖系子河口ヲ結ブ線以北	適宜	
-----	-----------------	----	--

松花江	適宜(第二松花江及嫩江ヲ含ム)	適宜	補測
-----	-----------------	----	----

水路圖ノ編纂及印刷

(一) 秘密水路圖

秘密程度	圖誌名	尺度	測量年	圖積	記事
極秘	黑龍江其ノ一 シルカ河口至黑河	五万分の一	昭和十年	在版	

海軍

石川 納

極秘	極秘
烏蘇里河 興凱湖至ハハロフスク	黑龍江 其ノ一 黒河至ハハロフスク
五万分ノ一	五万分ノ一
昭和十二年	昭和十二年
枉版	枉版
同	測量區域外ハ他ノ資料 ニ依リ補填スルモノトス
右	

石川納

各圖誌毎ニ一冊トス 但シ差換式トシ分圖及支水路（尺度適宜）並  
諸附表及曲線圖等ハ可及的之ヲ前記圖誌中ニ綴込ミ調製スルモノトス  
（二）普通水路圖

（一）前項ニ準ス

但シ水深全部地形ノ一部及兵要資料ヲ除ク

（四）總圖

圖名	尺度	測量年	圖積	記事
黑龍江シルカ河口至ハハロフスク	二千万分ノ一	昭和十、十二年	全紙八枚	内一枚ハハハロフスク附 近總圖ニシテ黒龍江及 烏蘇里河共通ノモノトス 青島廣陽書院付トス
烏蘇里河及興凱湖	二千万分ノ一	昭和十年	全紙三枚	本圖ハ及興凱湖ノ 作業ヲ實施シ餘カアル 場合ニ補製スルモノトス

寫送付先 軍務局長 駐滿海軍部參謀長 旅順要港部參謀長

海

軍